

研修報告書No.3

所 属：東邦大学医療センター佐倉病院 研修医
研修先：本山町立国保嶺北中央病院
いの町立国保長沢診療所

私は今回地域医療研修で平成 29 年 4 月の 1 ヶ月間、本山町立国保嶺北中央病院で研修をさせていただきました。また、長沢診療所や大川村診療所、汗見川診療所といった各地域にある診療所にもお世話になりました。嶺北中央病院は吉野川流域に位置し、周りを山々に囲まれ、自然環境の豊かな場所にあり、近くでは嶺北名物の土佐あか牛が放牧されている様子も見ることができます。嶺北地域では唯一の一般病床をもつ公立病院であり、診療圏は本山町、大豊町、土佐町、大川村の嶺北 4 町村で約 13,000 人の診療圏人口を抱えています。常勤の医師は内科 5 人と外科 1 人で一般病床と療養病床を合わせて計 111 床の病棟を有しています。

研修では入院患者の管理、救急外来の対応、各科の外来見学をはじめ、グラム染色やリハビリ、放射線などの実習も経験させていただきました。一番はじめに気づいたことは圧倒的に高齢者が多いということでした。またその多くの人が独居であったり、老夫婦のみで生活している人達でした。このような高齢者が多いことで、いざ退院できるような状態であっても、家庭の状況によってなかなか退院することができないことや、入院中により病気は治ったものの体は弱ってしまい、入院前の状態に戻らないことが多くありました。訪問診療や施設訪問にも同行させて頂いた際には、細い道を進んでいった山奥に一人で暮らしているような方にも出会い、このような方々を診療していくにあたっては病気を治すだけでは不完全であり、一人一人の生活環境や家庭状況を把握し、今後のよりよく生活できるように診療していかなければいけないと感じました。

いくつかの診療所でも研修をさせて頂きましたが、診療所は限られた時間しか受診はできず、医療資源も限られており、なかなか十分な医療サービスを提供することが難しい状態でした。問診と限られた医療器具で診察を行い、レントゲン設備がある場合でも医師がレントゲンを撮影しなければいけません。血液検査は診療所で採血し、病院に持ち帰ったあとに検査を行い、結果を伝えられるのは一か月後になることなどはよくあることです。診療所で働く先生方はこのような限られた時間や医療機器のなかで診察を行い、必要であれば処置などを行います。内科・外科にとらわれることなく、診察している姿を見て、すごいと思うと同時に出来ることには限界があると感じました。そのような環境の中、なるべく患者の情報を得るために、症状を言いやすいように環境づくりや少しの変化にも気を配っていることはとても勉強になりました。また普段、大学病院での放射線は放射線技師の方が、採血検査は検査部の方が行ってくださったり、多くの医療従事者が関わり合い、

とても恵まれた環境で診察していると感じました。

四国は幼いころに一度訪れたのみで、なかなか訪れる機会がなかったため休日はレンタカーで四国のあらゆる場所を観光しました。高知では桂浜や四万十川、愛媛では道後温泉や松山城、徳島では渦潮やかずら橋、香川では栗林公園や金刀比羅宮に行きました。四国のご飯はなんでも美味しく、特にカツオのたたきは絶品で、現地の方々もとても温かく、とても有意義に過ごすことができました。

この一か月で日頃は見ることができない地域医療の現場を体験することができ、地域医療の難しさや奥の深さを知ることが出来ました。今回の経験で医療の見方が変わり、今後の研修に役立てていこうと思います。一ヵ月間と短い期間でしたが、病院研修や四国観光など大変楽しい研修でした。お世話になりました。

